

＜今日の説教のポイント コリントの信徒への手紙Ⅰ 4章1～5節＞  
ルターの時代のヨーロッパの平均寿命は三十代前半で、人々の関心は死後のことにありました。この問題に光をもたらした聖書の福音は、現代人が抱える問題にも光をもたらすのでしょうか？

①寿命は伸びたが、自分を見つめて悩む現代人。

今は21世紀。多くの方は神様のことなんか考えていません。しかし、私を造り、私を見つめておられる神様を持たなくなったとき、人は自分で自分を見つめて、自分に合った道を見つけて生きていかなければならなくなったのです。自由だけれども不安に満ちた世界の中に置かれたのです。寿命は伸びたのに、自ら死を選ぶ人も増えている現代。しかし、聖書の福音はもちろん今の時代のそんな問題にも光をもたらしてくれます！ それはどんな光でしょうか？

②自分を見つめないパウロ。その意味とその理由は？

今日の箇所が一番目につくのは、パウロが自分自身のことにあまり拘泥していない言葉を繰り返し語っていることです。「私は、自分で自分を裁くことすらしません」(3)「自分には何もやましいことはないが」(4)。それは自分を見つめている方がおられることを知っているから語れるのです、「私を裁くのは主なのです」(4)（「裁く」のギリシア語の原語の意味は「尋ねる、問う」）。

③その主に「怒られる」より「褒められる」ことを思うパウロ！

パウロは、「あせるな」ということも語ります、「主が来られるまでは、先走って何も裁いてはなりません」(5)。そして一番驚かされるのは、その時の裁きに少しも不安を抱いていないことです、「そのとき、おのおのは神からおほめにあずかります」(5)。なぜでしょうか？ このように語るパウロは、自分より神様を見つめています。キリスト者を迫害していた自分をとらえ、赦し、用いて下さっている神様を見つめているのです！ 神様がこのパウロに託されたすべての人への救いのメッセージが福音 good news です（ローマ書 4:1-12）。「造り主にして憐れみに富み給う神様がおられる。この方を信じて生きる者となりなさい」、聖書が語るこの福音は、現代の色んな問題にも真の解決をもたらしてくれるものなのです！